

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 光薫福祉会	代表者	小林 正信	法人・事業所の特徴	ご利用者の方が、住み慣れた地域で安心した生活が送れる様、一人一人の生活スタイルに合わせた「通い」・「訪問」・「宿泊」を柔軟に対応し、これからも自宅での生活が継続出来る様可能な限りの支援を行い、ご家族の介護負担や精神的な負担の軽減を考慮し、医療連携、地域の連携に努め、一日でも長く自宅で一緒に生活出来る様支援させて頂きます。
事業所名	ビハーラ豆田	管理者	濱野 京子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	4人	0人	1	1人	0人	2人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評の確認	改善計画は具体的に明記、又は数値化し評価しやすい内容にする。	身体拘束委員会より、不適切な介護としての 7 つの項目でアンケートを実施し、アンケート結果の数値報告を行った。	特になし	4月の運営推進会議にて、令和6年度のサービス評価（目標）について確認する。
B. 事業所のしつらえ・環境	門扉から玄関までの間の所に、案内板を設置する。	案内板の年内設置が難しかったが、設置することは出来た。案内板設置後「案内板があるとわかり易かった」と意見を頂いた。	家族は面会時に事業所の様子を見る事が出来るが、他の方は運営推進会議（2ヶ月おき）に参加する時のみなので、見学が出来たらいい。	運営推進会議後に、事業所内の見学や事業所環境や職員の言葉使い等を専用チェックシートに記載してもらう。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所広報誌に「介護の悩み等があれば、いつでもご相談下さい」と文面を入れる。広報誌は利用者と一緒に自治会長宅へ配る。	事業所広報発行時に、介護についての不安等あれば、いつでもご相談下さい。の文面を入れる事は出来た。相談よりもお手伝いの要請があり、対応を行った。	運営推進会議の出席者にも広報誌を配布して頂けると、良いかと思います。	運営推進会議の出席者に、事業所広報誌を配布する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今年度は 10 名の方にオレンジカフェに参加して頂く。	オレンジカフェの開催日が決まっており、その曜日の利用者の参加を 3 名ずつ行い、10 名の方の参加を行う事が出来た。	利用者さんと一緒に事業所周辺を散歩したらどうですか？	気候の良い、春秋に利用者と地域の公園等へ出かける。 (年 4 回程度)
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に職員も参加し、一緒に協議、また参加との顔繋ぎをする。	職員参加は、出来る時は行った。職員と会議のメンバーとの顔繋ぎが、少しでも出来てよかったです。	職員の参加も出来てるので、引き続き会議へ出席して頂き、意見を業務に繋げてもらえればと思います。	運営推進会議にて、地域住民向けアンケートの内容立案を行う。

F. 事業所の 防災・災害対策	営推進会議参加者に防災訓練の様子を見学して頂く。 港町、丸の内町住民に1階フロアーを利用して頂く（小規模多機能が使用していない時間帯）	運営推進会議開催時に防災訓練を見学して頂き、消防署の方にも参加して頂き、訓練の評価を頂いた。町内の班内の会計報告の場所提供的を行った。	災害時マニュアルは、10月に見る事が出来た。実際の訓練を見学出来、消防署より講評を聞けた事は良かったと思います。	年に一度、運営推進会議に合わせ、防災訓練を行い、様子を確認して頂く。
--------------------	--	---	--	------------------------------------